



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# W 損害保険株式会社<sup>1</sup>

W 損害保険株式会社では、保険契約更新のための準備作業として、顧客との保険契約を再検討することになった。各顧客に対する保険金支払いデータを調査した結果、現在の保険内容で保険契約を更新していいのかという疑問が生じてきた。モンテカルロシミュレーションなどの計量的手法を利用し、この問題を検討していく。

W 損害保険株式会社は、顧客のニーズと満足を重視した保険商品・リスクコンサルティングサービスを提供している。同社が対象とする顧客は、個人をはじめとして、製造業、金融業、情報通信業、飲食業を展開する法人など多岐にわたる。今回、保険契約更新のための準備作業として、顧客である A レストラン、B レストラン、C レストランとの保険契約を再検討することになった。

W 社が検討していた保険契約は、全従業員を対象とする傷害総合保険契約であった。それは、レストランに勤務する従業員が、業務中、事故に巻き込まれた場合への備えとして、各レストランが福利厚生を充実させる目的で導入したものであった。各レストランの事業はほぼ同規模であり、従業員数、提供メニュー、営業時間それぞれについても類似していたため、これまでは同一内容の契約で同額の保険料を各レストランから受け取っていた。

表1は、各レストランにおいて職場事故の起こった日時と、それに対する保険金支払額に関するデータ（過去1年分）を示している。表1を見ると、C レストランの事故頻度が多いようであった。しかし、各事故に対する保険金支払額の観点からは、B レストランへの支払いが多いように見受けられた。

一事故に対しての保険金支払額の平均（以降、平均保険支払額）は、表1をもとに計算された。その結果、平均保険支払額は A レストラン 162.4 千円、B レストラン 268.5 千円、C

<sup>1</sup>本ケースは、慶應義塾大学大学院経営管理研究科専任講師安道知寛がクラス討議のために作成した。本ケースの記述は、経営管理の巧拙を例示するものではない。また、数値データはケース著者が仮想的に作成したものであり、現実の数字を反映するものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、ケースの複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8523 神奈川県横浜市港北区日吉本町2丁目1番1号電話 045-564-2444, e-mail case@kbs.keio.ac.jp）。また、ケースの注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/case/index.html>。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、本ケースのいかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またはいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送は、これを禁ずる。

レストラン 124.9 千円であった。B レストランへの一事故に対する保険金支払額は平均的に高かった。保険契約の再検討をさらに進めるために、W 社は過去 10 年間の各レストランに関する年間事故頻度、各年度の平均保険支払額についても調査した。

A レストラン		B レストラン		C レストラン	
事故日	保険支払額	事故日	保険支払額	事故日	保険支払額
1/06	118	2/05	228	1/01	37
1/23	103	3/25	288	1/02	140
2/07	86	3/30	452	1/14	95
2/08	229	4/11	195	2/25	68
2/12	90	5/07	389	3/22	198
3/22	210	6/21	80	3/26	112
4/25	283	7/13	444	4/01	151
5/05	221	7/22	229	4/04	167
5/13	181	8/18	194	4/29	111
6/02	58	9/10	497	5/05	69
7/18	161	10/05	135	5/17	194
7/20	286	12/01	234	6/20	183
7/30	166	12/06	210	7/10	123
8/01	71	12/23	184	7/25	75
8/11	101			8/05	139
8/12	91			8/16	78
10/22	255			9/01	69
11/05	69			9/13	120
12/19	287			9/24	53
12/20	181			10/07	158
				11/24	155
				11/27	111
				11/28	180
				12/15	149
				12/24	12
				12/27	197
				12/28	129

表 1: 各レストランにおける職場事故の起こった日時とそれに対する保険金支払額（単位；千円）に関する過去 1 年（2005 年度）分のデータ

年間事故頻度に関する結果をまとめた表2、及び図1を見ると、Bレストランの年間事故頻度はほぼ一定に推移しているが、Cレストランの年間事故頻度のばらつきは非常に大きいように思われた。なぜならば、年間事故が14回の年もあれば、その2倍以上の36回という年もあったからである。さらに、Aレストランについては時間の経過とともに増加傾向を示しているようでもあった。各レストランそれぞれに特徴があった。それとは対照的に、表2及び図2を見ると、平均保険支払額については各レストランともほぼ一定に推移しているように見受けられた。これまでの契約では各レストランから同額の保険料を受け取っていたが、そのままの内容で保険契約を更新していいのかは疑問であった。

年度	A レストラン		B レストラン		C レストラン	
	回数	平均金額	回数	平均金額	回数	平均金額
1995	16	172	11	268	25	121
1996	18	180	11	259	30	145
1997	18	175	13	265	32	133
1998	21	166	12	274	22	121
1999	15	174	12	277	14	129
2000	23	188	13	250	32	151
2001	23	177	13	269	36	125
2002	25	171	13	270	24	89
2003	23	163	13	271	24	112
2004	27	168	12	274	33	110

表2: 各レストランの年間事故頻度（回数）と平均保険支払額（平均金額（単位；千円））の推移。

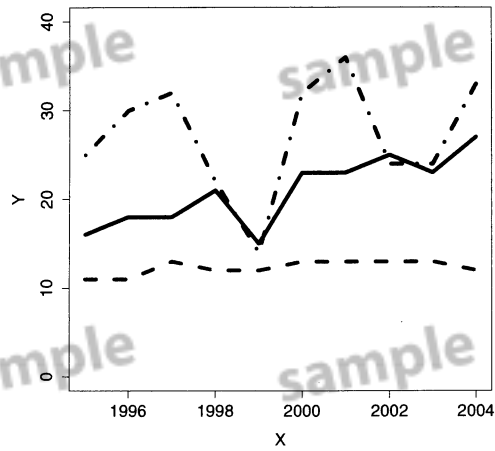


図 1: 年間事故頻度の推移: X 軸 (年度), Y 軸 (年間事故頻度). A レストラン (——), B レストラン (---), C レストラン (-.-.-).

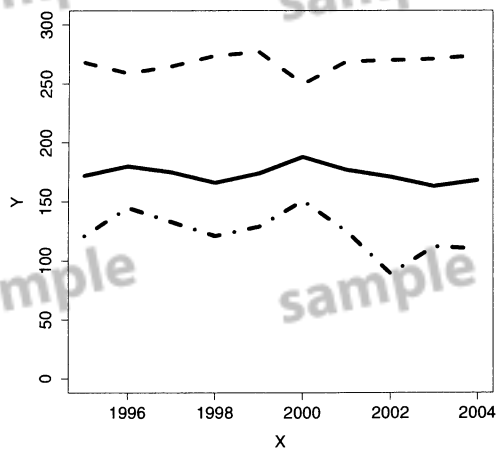


図 2: 保険支払額 (平均) の推移: X 軸 (年度), Y 軸 (保険支払額 (単位; 千円)). A レストラン (——), B レストラン (---), C レストラン (-.-.-).

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

---

---

不 許 複 製

---

慶應義塾大学ビジネス・スクール

共立18.12・P100